

# 音楽と私

四街道シニアアンサンブル 丁 照久（アルトサックス）

私がクラリネットを手にしたのはかなり遅く、高校一年になってからで、それまではピアノを練習していました。クラリネットを手にしたきっかけというのは、そのころ船橋のボーイスカウトのバンドに入り当時の吹奏楽界の大御所であった三戸知章先生の指導を受けることになって、そのとき渡されたのがクラリネットだったこと。これが私の人生の大きな出発点となりました。

時を同じくして市川市に村上正治先生が主宰されるアマチュアの「市川交響楽団」があり、管のパートが少ないこともあって参加させて戴き、オーケストラの楽しさ素晴らしさを知るところとなりました。

このオーケストラは村上先生の持つ人徳によるものでしょうか、当時のクラシック界の大御所であるピアノの井口基成先生や、ヴァイオリンの辻久子先生をお招きしてのコンチェルトが企画されて当時のアマオケでは接することの出来ない貴重な音楽体験をさせて戴きました。このことは私の音楽生活や指導の為の大きな支えとなっております。

昭和31年になって三戸先生が「船橋ヘルスセンター少女音楽隊」の創設を委嘱された時には私を副隊長として採用して戴き、女性だけに依るプロの吹奏楽団の指導育成にあたりました。今では女性管楽器奏者は珍しくありませんが、その当時はフルート・クラリネット・オーボエ等に多少、女性管楽器奏者が居る程度だったので、ブラス部門も含む全て女性だけのプロの吹奏楽団というのは画期的なことで、大変貴重な存在となりました。

三戸先生とは約3年間一緒に仕事をしました。先生のご都合でお辞めになったあとは後任に「警視庁音楽隊」を退官された山口常光先生が顧問として指導に当たられました。

10有余年公私ともに山口先生の教えを受けたことは私の音楽生活の中で一番充実した有意義な時期となりました。その頃の私は連日朝9時より夕方5時半まで音楽隊の指導。週に2回夜6時半から9時まで村上先生が指導するアマオケ「市川交響楽団」の練習。月2回クラの個人レッスンを受けに東京代々木上原の大森先生の処へ。芸大出の先生のレッスンは厳しく、「アイヒ

ラー」のクラリネットスケールと「クローゼ」のクラリネット教本の予習が大変だったことを覚えています。

余談になりますが、こんな多忙な中にあって友人のジャズバンドからトラ（エキストラ）の仕事が入り、このトラに依る収入は貴重なもので、これで自分が受けるレッスン代と足代が稼げた良き時代でした。

65才を過ぎた頃から仕事で使う楽器は卒業して次第に趣味の方へ移り、昔の仲間とボランティアの演奏を楽しむようになってきました。そのころ出会ったのが「千葉シニアアンサンブル」でした。

2008年の7月21日のタウン紙にコンサートの案内が出ていたのを見てどんなことをしているのか興味がわき、行ってみたらびっくりしました。千葉市民会館の小ホールが超満員でものすごい熱気！

私が歩んで来た音楽の世界とは違う世界を見せられたようなショックを受けました。早速団の責任者である山崎さんに電話して1週間後の練習日から参加させて戴きました。

2012年7月23日の「第2回定期演奏会」まで5年間お世話になりました。この間2011年4月4日に「四街道シニア」が発足しましたが、なんとこちらの指導者が私がクラを吹く切っ掛けとなった「船橋ボーイスカウト」で一緒に吹いていた成島弘先生です。

彼はバークリー（音楽大学）\*を卒業してしばらく「ブルーーツ」に在籍していた超ベテランのジャズメンです。というわけで結局彼の率いる「四街道シニア」に席を置き現在に至っております。

この様に来し方を振り返ってみると、私は三戸先生を始め、村上先生、山口先生という偉大な先生方との出会いに恵まれてここまで来られたことに感謝いたします。



\* バークリー音楽大学は、世界で最も有名な名門の音楽大学です。特にJazz Composition（ジャズ科）が有名で、数多くの有名ジャズプレイヤーを輩出しています。